



農大

業論文発表会
十九年度



「計画をもって

目標達成を」

校長

小林 こばやし

智子 のりこ

「卒業論文発表」で二年間の成長ぶりが判ります。発表する姿は、練習を積んだ者ほど堂々としていました。しかし、成果はプロジェクト計画で差がありました。経営での活用、目的の明確さ、調査・研究方法の適切さ、判断根拠の妥当性などが計画時にしっかり考えられていたかどうかです。

プロジェクトテーマの切り口は「現状の改善策の実証」「理想の実現に向けた仮説の実証」など学生それぞれでしたが、計画を基に時期を逸することなく実践できた者は、結果をきちんと出していました。それは、新たな課題発見や次の展開にも繋がっていました。卒業で習得したプロジェクト（課題解決）の方法は、経営改善や経営発展に使う基本技術です。いろいろな場面で大いに活用して目標達成してください。

校内卒業論文発表会開催!!

平成30年1月16日、卒業論文発表会を開催しました。本校では、学生が自ら設定した課題の解決を図る「プロジェクト学習」を教育の柱に据えています。そのプロジェクト学習の成果を、養成課程の2年生18名がそれぞれ卒業論文としてまとめ、発表を行いました。

校内審査で金賞に選ばれた森石くん、銀賞の笹原くんは、鳥取農大の代表として、中国四国ブロック農業大学校プロジェクト発表会にも出場しました。その結果、笹原くんは、見事、優秀賞を受賞し、2月に東京で開催される全国プロジェクト発表会への切符を手に入れました。笹原くんは、全国プロジェクト発表会でも素晴らしい発表を行いました。



森石 凌太 (野菜コース)

エリザベスメロンの裂果防止
一産地復活を目指して

このような機会は、なかなか無いので、受賞できてすごくうれしかったです。いい思い出になりました。



笹原 洸希 (果樹コース)

自分で選んだ道の先に…
～シャインマスカットに込めた夢～

銀賞に選んでいただき、ありがとうございます。これで満足せず、全国大会でも入賞を目指し、更に卒業後も自分の目標に向け努力します。



徐 漫蓉 (果樹コース)

ナシ「新甘泉」の安定生産と労力分散の検討

入賞できるとは全然思っていなかったので、驚くと同時にうれしかったです。ご協力いただいた方々には、感謝の気持ちしかありません。

意見発表会開催!



平成29年11月7日、校内意見発表会を開催しました。将来の夢や農業に対する想い、また、将来の就農に向けての決意などについて日頃思っていることを、1年生19名が発表しました。

果樹コースの三谷さんは、学校代表として、平成30年1月25日に島根県出雲市で開催された中国ブロック農業大学校等意見発表会で堂々と発表を行い、見事、鳥取農大始まって以来初の「最優秀賞」を受賞、2月に東京で開催される全国大会へ出場しました。そして、全国大会でも堂々と発表を行いました。

(校内意見発表会の受賞者)

賞	コース	氏名	題名
最優秀賞	果樹コース	三谷 綾香	「梨の子 ～過去から未来へ～」
優秀賞	果樹コース	大鹿 永遠	「人と自然にやさしい農業」
優秀賞	果樹コース	東地 海也	「MY DREAM」

モンゴル交流20周年

【モンゴル 20 周年記念事業】

鳥取県とモンゴル中央県は平成9年に友好交流に関する覚え書きを交わし、農業・医療分野で交流を続けています。20周年の節目を迎え、農業大学校(H29.4.11)とモンゴル中央県県庁(H29.7.28)の2会場で記念式典が開催されました。中央県は、輸入に依存している野菜を国内生産する政策に力を入れています。農業大学校では、中央県の農業指導者を毎年受け入れ、野菜の生産技術研修などを行ってきました。これまで20年間に受け入れた研修員(延べ25人)は、野菜技術指導やハウス導入による野菜経営の確立などでモンゴル農業振興に貢献され、野菜生産量も増加しています。記念式典では、中央県知事から農業大学校に名誉勲章が授与されました。



【モンゴル現地指導】

肉食中心であったモンゴル中央県では、近年、野菜を食する習慣が定着しつつあります。また、市場向けのキュウリ、トマト、スイカの栽培が盛んになっており、ビニールハウスの建設が急増しています。一般家庭でも、庭先の家庭菜園で各種野菜を栽培する方も増加しています。

しかし、技術指導を行う人材が不足しており、適切な管理が行われていないのが現状でした。また、モンゴルには河川、ため池がほとんど無いので、水の確保が非常に難しく、水の管理が行き届いていませんでした。水分不足のため圃場が乾燥状態であったり、水が確保できた時に、まとめて多量灌水するので、根腐れを起こしている事例が多いです。

そこで、適切な灌水方法を指導したところ、最初は半信半疑だったのですが、実際に根腐れを起こした根を掘り起こして見せたり、周辺の土を掘って植物の根域の広さを確認すると、ようやく納得されました。

今後も技術員派遣し、モンゴルの農業技術向上を継続支援したいと思います。

【モンゴル研修生の農大での研修】

本年度は、中央県ゾーンモド市から「ヒシグゾンドイ・トゥヴシンジャルガル(愛称: トッフシェ)」さんが研修生として農業大学校に来られました。研修内容は、ハウス栽培、病害虫対策、販売及びマーケティング方法を希望されました。ハウス栽培では、中央県で需要の高いキュウリを担当していただき、定植、誘引、病害虫防除、収穫までの一連の管理作業を勉強されました。販売及びマーケティング方法については、中央農協の福山部長から、直売所の運営方法、農家と消費者交流の重要性等について学ばれました。現在、中央県では、野菜の直売所が続々と開設されており、直売所の運営方法は、中央県で非常に参考となる情報だと喜んでおられました。



また、研修の合間には、東郷池の足湯、倉吉市の白壁土蔵群、日本海にも足を運ばれ、鳥取県の魅力を満喫し、ますます鳥取県好きになられたようです。

2ヶ月と非常に短い研修期間でしたが、モンゴルでの活躍を期待したいと思います。

祝卒業
祝修了

農大での学びを振り返って

● 果樹コース ●



在学中の2年間、果樹の栽培技術や知識を先生方や研修でお世話になった農家の方に教えていただきました。その際、よく耳にしたのが「果樹は各作業を1年に1回しかできない。だからこの1回を大切に」という言葉です。これは果樹に限らず色々な事にも通じると思います。この言葉を忘れず、これから先の道をしっかり歩いていきます。新2年生になる学生は、「報・連・相」や人との会話ができるようになりたまえよ！期待してるぞ！最後に果樹科の皆さん、お世話になった方々、2年間ありがとうございました。

● 野菜コース ●

この2年間長いようで短い大学生活でした。在学中、農業に関する知識や技術、社会人としてのマナーや礼儀などを学ぶことができました。入学当初は不安でいっぱいでしたが、たくさんの友達ができ、専攻でも先生から様々な事を学び、成長ができたと思います。

1年生の皆さん悔い無き大学生活を送り、新しく入ってくる1年生とともに充実した大学生活が送れるよう頑張ってください。



● 花きコース ●



この2年間で一番学んだことは、見極める大切さです。消費者に届ける花を栽培するには、花の状況を見ながら、水、肥料、防除など、次に何をすべきなのか考え行動することが大切だと感じました。

1年生の皆さんは、覚えることが沢山で忙しい1年間だったと思います。次は教える側で大変だと感じることもあると思いますが、笑顔を忘れず頑張ってください。

● 作物コース ●



稲作の「イ」の字も知らない私たちに農業のいろはを教えていただいたことに大変感謝しています。入学したての私たちは先生方にご迷惑をかけ、怒らせてしまうことも多々あったと思いますが、どれもいい思い出です。後輩の皆様にも迷惑をかけることもありましたが、1年間あなたたちと過ごした時間は充実したものでした。

卒業後、私たちはそれぞれの道を歩むこととなります。この先、どんな困難なことが立ちふさがっても、農大で学んだことを活かし、この厳しい社会を生き抜いていこうと思います。

最後になりましたが、2年間大変お世話になりました。

● 畜産コース ●

つい最近入学式を迎えたばかりのような気がしていたのに、もう卒業を迎えることになりました。それほど早い2年間だなという感じです。農大に来てから、身につく勉強、経験を沢山させて頂いて、大切な友達もできて、とても充実した学校生活でした。そして、無事卒業出来るのは、周りに居てくださった皆様のおかげだと思います。社会に出ても、この思い出を胸に頑張っていきます！ありがとうございました。



養成課程学生の卒業後の進路 (平成30年1月29日現在)

雇用就農58%、親元就農5%、公務員11%、進学5%、農外就職5%

● 研修科 ●



普段の講義や実習は大変勉強になりましたし、さらに大型特殊免許等の資格も取得できました。なかでも一番の成果は就農先や今後の営農方針が定まったことです。農業大学校のおかげで農家として大きな一歩を踏み出す自信ができました。

新研修制度の紹介

本校研修課程では、社会人等で新たに就農を希望する方を対象に、就農に必要な知識と基本技術について学ぶことができる研修を実施しています。

来年度、新たな研修制度として創設予定の「スキルアップ研修（短期研修）」の内容をご紹介します。

スキルアップ研修（短期研修）の内容

① 特色

その1 ▶ 県内で栽培される主要野菜4品目（白ねぎ、ブロッコリー、スイカ、ミニトマト）について、品目別に実施する基礎研修です。

その2 ▶ 各品目の栽培特性、防除や施肥等に関する基礎知識を座学で学びながら、グループでの栽培管理実習も行います。

その3 ▶ 約4か月間で、植付準備から収穫までの一連の栽培管理作業を経験することができます。

② 受講資格

以下の要件のいずれにも該当する方

ア 新規就農者又は鳥取県内での就職（新たに自営で農業を始める、後継者として親の農業経営を継ぐ、農業法人等に就職するなど）を希望し、就農が見込まれる方

イ 受講開始時の年齢が65歳未満の方

③ 出願・開講日程および定員

	4月開講 (白ねぎ)	6月開講 (ミニトマト)	7月開講 (ブロッコリー)	9月開講 (白ねぎ)	3月開講 (スイカ、ミニトマト)
受付期間	H30.2.1～2.28	H30.4.1～4.30	H30.5.1～5.31	H30.7.1～7.31	H31.1.4～1.31
面接実施日	H30.3.13	H30.5.15	H30.6.11	H30.8.10	H31.2.11
研修期間	H30.4.13～8.10	H30.6.12～10.12	H30.7.11～11.13	H30.9.13～H31.1.16	H31.3.1～6.30
定員	各品目5名程度				

④ 受講料

40,000円

※「スキルアップ研修（長期研修）」、「先進農家実践研修」、公共職業訓練「アグリチャレンジ科」は、来年度も継続します。研修の概要、募集の詳細は、本校ホームページにてご確認ください。

農業大学校ホームページ：<http://www.pref.tottori.lg.jp/noudai/>

GLOBAL G.A.P. (グローバルギャップ) の取り組み

鳥取県立農業大学校では、平成30年度よりGLOBAL G.A.P.を学校教育の一環として導入し、国際的な視野を持ち、グローバル化に対応できる農業人材を育成するとともに「食の安全安心」「労働安全」「環境保全」等の持続的な達成を可能とする知識や手法の習得を目指します。

併せて、平成30年度は「日本ナシ」での認証取得にチャレンジする計画としており、順次品目を増やしていく計画です。

【GLOBAL G.A.P. (グローバルギャップ) とは】

G.A.P.とは「Good Agricultural Practice」の頭文字をとった略語で、直訳すれば「良い・農業の・実践」となりますが、一般的には「農業生産工程管理」と翻訳されます。

その概要は農業生産現場において、消費者の安全、労働者の安全、更には環境保全を同時に達成し、持続可能な農業を実践するための農業者自身の活動です。また、この活動が基準書の資格要件に達していれば、国際基準の認証を取得することができます。